

## 令和5年度第1回奈良市学校部活動のあり方検討懇話会の意見等の概要

開催日時	令和5年9月22日（金）午後1時から午後3時まで
開催場所	奈良市役所中央棟 地下1階 B1会議室
意見を求める内容等	・実態把握のためのアンケート調査（案）について ・今後の進め方について
参加者	参加者10名 事務局 13名
開催形態	公開（傍聴人 0人）
担当課	教育部 学校教育課 市民部 スポーツ振興課 市民部 文化振興課

### 意見等の内容の取り纏め

事務局による、部活動地域移行に関する概要説明の後、参加者に意見を求めた。

《意見を求めた内容及びそれらに対する意見等》

○実態把握のためのアンケート調査（案）について

〈参加者からの意見〉

- ・実態把握したい主な内容として、スポーツ及び文化芸術活動のニーズ、部活動地域移行に期待すること及び部活動地域移行について感じている不安や課題の3つのビジョンをあげており、的を射ている。
- ・調査対象者が児童生徒及び保護者となっているが、地域が入っていない。これから移行していくのに期待や不安があるのは地域も同じであるので、地域の声も聞いてはどうか。
- ・地域に聞くことは大事であるが、だれを対象にするのか、どのように絞るのか、スポーツ関係者に聞くのか、文化活動関係者に聞くのかなどを検討する必要がある。
- ・地域に向けてアンケート等を行う場合、行政組織上の問題があり、学校体育に関する業務は教育委員会に存在するが、それ以外は市長部局のスポーツ振興課の業務となるため、垣根を乗り越えてやっていいのかという懸念がある。
- ・スポーツ振興課として、スポーツ少年団の関係者などへ調査する意向があるのかがポイントであり、それがないと地域への調査は進めることができないと考える。
- ・児童生徒及び保護者へのアンケート結果を見て、地域への調査を検討するのでは遅いと思う。
- ・児童生徒及び保護者へのアンケートの結果で、「地域の活動に参加したい」という意見が

多数であった場合において、地域が受け皿になれなかったらどうなるのか。

- ・地域への調査も並行して進めていかないと、令和8年には間に合わないと思うので、地域の意見も早く聞いておいた方が良いと考える。
- ・奈良市や奈良県の総合型クラブの関係者へ、地域移行についての周知徹底はできているのかや、認知状況はどのような状態なのか。
- ・学校職員の中でも不安はある。
- ・「地域移行」という言葉からすると、地域の方の意見を汲み取るのは大事なのではと考えるが、地域に部活動を受け入れられるのか、と意見を聞くのは早急であると思う。
- ・地域移行にて利益を受ける子どもたち、保護者にまず意見を聞くのがいいのではないか。それから理解を浸透させるのがよいと思う。
- ・既存のスポーツクラブに自主的に参加できる仕組みを作り、そこを担える団体をお願いすることになるのが現実であると考えている。
- ・各種団体においては、部活動の地域移行に関して、部活動の指導者が減っているため、指導者の人数が少ないところへ指導するために行かないといけない、というくらいの認識で止まっており、自分たちで地域クラブを立ち上げようという意識はない。
- ・指導者の高齢化も顕著であり、若い人をスポーツに呼び込みたいという要望はあるため、地域への調査は早いうちにしたい方が良く考える。
- ・奈良市には、スポーツ活動ができる団体はたくさんあるが、吹奏楽の分野において地域で自立して活動している団体はないのではないかと。
- ・吹奏楽の活動は、活動する場所、人、楽器の3つが揃わないと進まないため、地域でその条件を備えるところはどこにあるのかという視点で探っていく必要がある。
- ・学校がどこの地域にどんな組織があるかということ把握できればマッチングが進むのではないかと。
- ・国のガイドラインにはモデルがないため、奈良市においてはまずモデルを作ることが大切であり、現在奈良市はモデルを考えている段階である。
- ・その実現のために、児童生徒及び保護者にアンケートを実施し、不安や課題を整理した後、奈良市の部活動モデルを作り、総合型、少年団含め地域に「こういう形でやろうと思うのだがどうでしょうか」と聞いていきたい。
- ・情報提供は同時進行でやっていく必要があり、スポーツ振興課はスポーツ協会をとおしてスポーツ少年団などに情報提供をしてほしい。
- ・モデルができたら地域にも調査を進めていくというのはどうだろうか。
- ・行政は仕組みができてからでないと地域に周知しないという印象があり、その段階では地域は悩んでしまい、結局時間がかかり、立ち消えるということを繰り返している。
- ・本懇話会には仕組みづくりのために、地域からも代表者に出席していただいている。
- ・地域には、まだ自分ごととして捉えられていない方もおられるため、ある程度モデルができた状況でないと住民には周知できないのではないかと。
- ・この事業は教育委員会も手探りで進めていると思う。
- ・小規模の自治体においては、国、県の施策を当てはめやすいが、奈良市のような大きな市では、交通の便が悪いところやクラブがあまりないところなど、条件的には難しいと

ころがあるため、よほど考えないと一斉にスタートできないのではないか。

#### ○今後の進め方について

〈参加者からの意見〉

- ・ 教員自身の部活動への考え方を変えないといけない。
- ・ 「生涯にわたり」というところへ向かっていくのが大切であると思うので、子どもだけの問題でなく、大人も含めて一体となって考えていかなければならない。
- ・ ドイツはクラブの先進国であり、学校に部活動はなく、授業では理論だけをやって、実技は地域クラブで行っている。
- ・ 「クラブ」という認識が日本と全く違うが、参考になると思う。
- ・ 土日は地域の子どもとして、地域の大人と関わっていくことが理想で、その仕組みを具体的にどう作っていくのかを懇話会で議論し、令和の社会に合ったモデルを考えていければよいと考えている。
- ・ 部活動の延長線上で考えてきた際、指導者の確保に目が行っていたが、環境整備や場所、スタッフの充実など、指導者以外にも視点をもって考えるべきである。
- ・ 部活動の地域人材バンクについて、指導者を探してくるのは学校の仕事であったが、今後は指導者を探すことを誰がするのかの建付けを考えないといけない。
- ・ 人とお金、ビジョンを持って考えないといけないと思う。
- ・ 人材の発掘については、スポーツ協会以外にも周知していく必要があり、文化関係については文化振興課で探す必要があると考える。
- ・ 現在、日本全国には、約 3850 団体の総合型クラブがあるが、ドイツのようなクラブは 100 団体もないと思われる。
- ・ 競技スポーツもレク志向もいっしょにやるのが総合型クラブというのが国の考えであり、NPO 法人のスポーツクラブが部活動も少年団もすべて取り込んでやっている町もある。
- ・ 総合型スポーツクラブや NPO 法人のスポーツクラブの管轄はスポーツ振興課であるため、今後はスポーツ振興課と教育委員会が手を取り合い、子どもだけではなく、大人のスポーツについても考えないと問題はクリアできないと思う。
- ・ 現在、市内の地域で、加盟クラブ数 45 団体、25 種目の総合型クラブを運営しており、地域の方が指導し、地域の中学生も活動に参加している現状がある。これだけのクラブを 1 つの協会としてまとめていることから、このスポーツ協会が地域移行のモデルを担うことは可能であると考え。
- ・ 2 つのコミュニティスポーツ会館や学校の施設も使っているため、部活動と活動場所が重なるところもあり、今後地域移行を受けることで winwin の関係になるかもしれない。
- ・ このスポーツ協会は地域に根付いており、子どもたちも楽しく参加しており、部活動地域移行の次のステップにはよいかもしれない。また、この地域には文化協会もあり、文化活動もさかんである。
- ・ 地域クラブの活動がうまくいっているところに早めに聞き取って、参考にするのは重

要ではないかと考える。

- 具体的な方策として、近隣の中学校でゾーニングし、最低8つ程度地域クラブがあれば、モデルになるかもしれない。
- すでに受け皿がある地域については、早く地域への意見聴取を行ってはどうか。
- 学校現場では、子どもたちに教員から地域移行について伝えられていないため、アンケートを実施する際の伝え方について、教育委員会は配慮していただきたい。
- 調査を実施する際には、ただやらせるだけでなく、丁寧に説明しながら行っていくとよい。